「日露戦争の軍人たち 広瀬武夫と秋山好古」 メモ

●俳人中村草田男は「降る雪や明治は遠くなりにけり」

▽中村隆英さん(経済学者)は

「これは単なる叙情と感慨の句ではない」

▽この句が作られたのは 昭和１１年２月

この雪は 二・二六事件 クーデターの朝の大雪

二・二六事件

陸軍皇道派青年将校が起こしたクーデター。昭和11年2月26日未明、1400余名の部隊が首相官邸などを襲撃、斎藤実内大臣、高橋是清蔵相らを殺害、永田町一帯を占領した。政府は翌日戒厳令を公布、反乱は29日に鎮圧された。岡田啓介内閣は総辞職、軍の発言権は強くなった。

▽中村さんは「草田男はこのクーデターに対する憤りを十七文字にさりげなく秘めていたのではないだろうか。明治以来の安定が、このとき完全に失われたからである」

▽少年草田男の目に映った

良き明治の軍人とは どんな軍人だったのか

海軍の広瀬武夫中佐 陸軍の秋山好古少将

●日米開戦の日、ハワイ真珠湾攻撃の「九軍神」

軍人の死を「軍神」として神格化

大本営が特殊潜航艇の攻撃を発表したのは、昭和16年12月18日。アリゾナ型戦艦1隻撃沈の戦果に続き、「我が方の損害 飛行機29機、未だ帰還せざる特殊潜航艇5隻」が最初で、17年3月6日午後5時のラジオニュースは「海ゆかば」の荘重な演奏で始まった。「此の全世界の心胆を寒からしめたる攻撃の企図は攻撃を実行せる岩佐大尉以下数名の着想である」こと、岩佐直治大尉を中佐に進級させるなど、戦死者9人の氏名と2階級特進、連合艦隊長官の感状授与を発表。新聞は「大東亜の新軍神九勇士 ハワイ海戦の華・特別攻撃隊」と派手に取り上げた。

なぜ発表が3か月も遅れたのか？ 5隻なのになぜ9人なのか？ 真相が明らかになったのは戦後。酒巻和男少尉の潜航艇が座礁、日本の捕

中村　草田男(なかむら・くさたお) 本名 清一郎

明治34(1901)～昭和58(1983)中国生まれ。俳人。高浜虚子に師事し人間探求派の代表として俳壇での地位を確立。戦時中は自由主義者として圧迫される。成蹊大教授、俳人協会初代会長。昭和58年芸術院賞受賞。句集に「長子」「万緑」「火の島」「来し方行方」「銀河依然」

中村　隆英(なかむら・たかふさ)

大正14(1925)～　東京生まれ。経済学者。東大、お茶の水女子大教授。著に「日本経済－その成長と構造」「昭和史」

広瀬　武夫(ひろせ・たけお)

慶応4(1868)～明治37(1904) 大分県竹田市の岡藩出身。明治30年ロシア留学。厳冬のシベリアをソリを乗り継いで帰国。第2次旅順口閉塞作戦で福井丸を指揮して戦死、海軍中佐に進級。「軍神」と称揚され、神田須田町に銅像が建つ

秋山　好古(あきやま・よしふる)

安政6(1859)～昭和5(1930)伊予松山藩出身。陸軍大将。明治20年からフランスに4年間留学。日清戦争後に乗馬学校長(のち騎兵実施学校)を務め、騎兵の基礎を築く。清国駐屯軍司令官を経て36年に騎兵第1旅団長となり、日露戦争で勇名を馳せる。騎兵監、教育総監歴任。予備役後、郷里松山の私立北予中学校長

陸軍も負けじと…

17年5月22日、飛行第64戦隊長・加藤建夫(かとう・たてお)中佐が、ベンガル湾上空で英機と交戦して海に突っ込み自爆すると、「空の軍神」に飛び付いた。陸軍は7月2日、加藤の戦死と少将に2階級特進させたことを発表した。

虜第1号になっていた。その確認と陸軍は緒戦の殊勲甲戦死者について、異例の2階級特進をさせていた。海軍報道部は9人について詳細な記事資料を配布、「軍神扱い」を要請したのだ。

作家の獅子文六は岩田豊雄の本名で、横山正治中尉をモデルに小説「海軍」を朝日新聞に連載、多くの少年が海軍に憧れるようになった。

▽戦局の悪化で 特攻隊が 次々と飛び立ち
　２階級特進が増えると共に
　「軍神」として讃える余裕は 失われていった

●日本の「軍神」第１号が広瀬中佐
▽日清戦争(明治27、8年)の時には 軍国美談が中心
▽軍の発表というよりは 新聞記事で紹介され
　錦絵に描かれ 歌に歌われて 広まっていった
▽死んでも ラッパを放さなかった 木口小平
　平壌玄武門に 一番乗りした 原田重吉

軍歌「勇敢なる水兵」

軍艦松島の少年水兵三浦虎次郎(18歳)は重傷を負って、苦しい息の下から「定遠(清国戦艦)はまだ沈みませんか」と尋ね、「仇を討って下さい」と絶命した。佐世保に帰ってきた松島副長が、行きつけの本屋で話したところ、時事新報の通信員をしていた主人が「いい話だ」と記事にした。この記事に感動したのが新進歌人・23歳の佐々木信綱。「煙も見えず雲もなく」で始まり、「まだ沈まずや定遠は」と続く軍歌「勇敢なる水兵」となった。

日清戦争勝利の報せに国民は沸いた

明治維新は、日本に四民平等の新しい国家を生んだ。徴兵制、国民皆兵になって外国との初めての戦争が日清戦争。それまでの戦争は、侍社会の話であり自分たちの生き死にには直接関係はなかった。それが、誰もが銃をとって戦う自分たちの戦争になった。

生方敏郎の「明治大正見聞史」によると、勝利の報せは電信線の来ている警察署に真っ先に入って来た。警察は、それをいちいち掲示板に

加藤隼戦闘隊は「エンジンの音轟々と 隼は征く雲の果て」で始まる部隊歌を持っていた。19年3月に東宝映画「加藤隼戦闘隊」(山本嘉次郎監督)が封切られると、灰田勝彦の歌が大ヒット、少年の夢を大空に掻き立てた。

獅子　文六(しし・ぶんろく)　本名 岩田豊雄
明治26(1893)～昭和44(1969)神奈川県生まれ。小説家・劇作家。戦争中、本名で発表した「海軍」は戦争文学の代表作といわれる。戦後は「てんやわんや」「自由学校」「大番」など話題作を発表した

支那事変では「軍神西住戦車長」

中支派遣軍戦車第5大隊西住小次郎中尉(25歳)が、徐州作戦で戦死したのは13年5月17日。陸軍省は大尉に進級させ、12月になり「軍神」と発表した。

9月に松竹映画「愛染かつら」(川口松太郎原作)が封切られ大ヒットしている時。幼児を抱えた未亡人看護婦高石かつ枝が、勤務先の大病院の御曹司・津村浩三と愛し合い、幾多の障害を乗り越えて結ばれる純愛物語。上原謙、田中絹代のトップスターで映画化されると、続編・完結編合わせて観客動員1千万人を記録した。

陸軍は無名の青年を「軍神」にして、国民の戦意を高揚させようとしたのだが、文部省も14年8月「西住戦車長」(菊池寛原作)を推薦児童図書に指定した。ノモンハンで関東軍がソ連機械化部隊に惨敗、陸軍は戦車部隊強化に7月15日から少年戦車兵の募集を開始していた。15年8月には内務省は松竹に対し「小市民映画、個人の幸福のみを描くもの、女性の喫煙、カフエーにおける飲食場面、外国かぶれの言語、軽佻浮薄な言動は一切禁止」と通達。松竹が11月、上原謙主演で「西住戦車長

書き出したが、小学生の生方は母親に言い付けられ1日に何度も何度も見に行った。その都度、大人も子供も大声で万歳を叫び、老人は涙を流した。日清戦争のヒーローは、普段市民生活をしている商人、農民の戦いぶりであり、新聞や錦絵の主人公も身近にいる兵士だった。

●日露戦争の「軍神広瀬」は、どんな背景から？

▽満州で 日本陸軍が戦うには
　まず 弾薬・物資の補給路確保が 必要だった

▽旅順の ロシア艦隊を撃破し
　制海権を確保しようと 駆逐艦隊が旅順口夜襲

▽ロシア艦隊は 湾の奥深く 閉じ籠もったまま
　要塞に守られて 出て来ない

▽湾の入口は 幅２７０㍍ 軍艦の水路は９１㍍

▽連合艦隊参謀 有馬良橘中佐は
　「敵が出て来ないのなら、入口に船内をセメント漬けにした大型汽船を沈めて、ロシア艦隊が出入り出来ないようにすればよい」

▽司令長官 東郷平八郎は
　「危険が多すぎる」 簡単には 首を振らなかった

▽２月１８日 夜間の作戦とすること
　沈めに行く船に 水雷艇１隻ずつをつけること
　「兵を救うに万全を期すべし」と
　　命じた上で やっと 閉塞作戦を許可した

●２月２４日、５隻の船で決行することに

▽総指揮官に有馬中佐
　報国丸指揮官は 戦艦朝日の水雷長広瀬少佐

▽三方を砲台に囲まれた 狭い湾に突入し
　船を沈めた後は ボートを漕いで帰って来る

▽「決死隊」であることに 変わりはなかったが
　下士官 兵の志願者を募集すると
　　たちまち ２千人を超え 血書志願の者も

▽長男や 一人っ子を 外すなど
　家庭の事情を考慮し 第１次隊員７７人を選抜

▽早々と 敵に発見され １隻が港外に擱座
　２隻は 位置を誤認して爆沈
　報国丸など２隻が 目的を達しただけだった

伝」を製作すると、陸軍機械化部隊の出演も評判を呼んでこの年最高の興行収益をあげた。

佐々木　信綱（ささき・のぶつな）
明治5（1872）～昭和38（1963）　三重県出身。歌人、国文学者。東大で教壇に立ち、万葉集研究、和歌・歌学の史的研究に業績を残す。歌集「思草」のほか軍歌、式典歌の作詞も多い。昭和12年文化勲章

生方　敏郎（うぶかた・としろう）
明治15（1882）～昭和44（1969）群馬県沼田生まれ。随筆家。東京朝日記者を経て個人雑誌「ゆもりすと」「古人今人」を発行。著に「明治大正見聞史」

有馬　良橘（ありま・りょうきつ）
文久1（1861）～昭和19（1944）　和歌山県生まれ。海軍大将。明治36年連合艦隊参謀となり、旅順口閉塞作戦を立案、指揮官として参加。第1艦隊長官、海兵校長、教育本部長。昭和6年から明治神宮宮司

東郷　平八郎（とうごう・へいはちろう）
弘化4（1847）～昭和8（1934）　薩摩藩出身。海軍大将・元帥。明治3年から8年間、英国留学。36年連合艦隊長官となり、日本海海戦でバルチック艦隊を破り国民的英雄に。戦後軍令部長。海軍長老として大きな発言権を持ち、昭和5年のロンドン軍縮条約に反対した。国葬

広瀬は手記に書いている

朝日だけでも志願者は231人。「アア死ヲ賭シテ事ニ当ラントスルノ気性ハ、実ニ吾国民ニシテ始メテ見ルベシ。痛快ノ至リニ堪ヘズ」と感動しながら「其ノ取捨ニ於テ大ニ苦ルシム」
また兄勝比古（海軍大佐）宛てに「臨戦豈

東郷は第２次隊員募集に条件をつけた

「指揮官は前回の参加者を任用するが下士官兵は新しく募集すること」。決死より必死に等しい任務に、同じ人間を繰り返し充てるのは忍びない、との考えだった。

作戦会議で参謀秋山真之が「早く見つけられて猛射されたら、出直すことにしたらどうか」と提議したところ、広瀬は反対した。「いや、断じて行なえば鬼神も避く。猛砲火は常に免れないから、退却を許すことになれば、結局何度やっても駄目だ。弾雨を冒して突進するの一事あるのみ」― 東郷は「各指揮官の状況判断で進退してよろしい」と裁決した。

●第２次閉塞作戦は３月２７日未明、４隻、総員６８人により行なわれた

▽広瀬の指揮する 福井丸(2693トン、船齢21年)は
　１年は引揚げ不能にするため 石材１４００トン
▽午前２時２５分 港入口２浬で発見され 猛砲火に
▽広瀬は 杉野孫七上等兵曹に 投錨・爆沈を命じた
▽杉野が 船底に駈け下り
　爆破操作に かかろうとしたところ
　露駆逐艦の魚雷が 船首に命中 沈み始めた
▽脱出のため 点呼をとると 杉野がいない
▽広瀬は 全員を ボートに待機させたまま
　「待て、もう一度探す」と ３度 船に戻ったが…
▽広瀬のボートが 戦場を去る最後のボートに
▽とりわけ 銃砲火の的になり
　１発の砲弾が 広瀬の頭に命中
　広瀬の体は わずかな肉片を 残しただけで
　一瞬のうちに 海に消えた

●山本権兵衛海相は、開会中の帝国議会で特に発言を求め、東郷長官の公電を読み上げた

▽新聞各社は 号外を発行
　部下の安否を確かめて 犠牲になった行動が
　国民の 大きな感動を 呼んだ
▽欧米の新聞も「キリスト的献身」と 大きく報道
　ドイツでは 広瀬の肖像入り 絵はがきも

生ヲ期セン。又一首ノ辞世ナカル可カラズ。強テ三十一文字ヲ駢(ならべ)ヌ。七八度生れかはりて敷島の日本男児の義務(つとめ)尽くさん」

秋山　真之(あきやま・さねゆき)

慶応4(1868)～大正7(1918)伊予松山藩出身。海軍中将。好古の弟。明治30年、米国に留学、海軍切っての戦術家。日露戦争では連合艦隊参謀としてバルチック艦隊を破る。軍務局長在任中に急死

山本　権兵衛(やまもと・ごんべえ)

嘉永5(1852)～昭和8(1933)　薩摩藩出身。海軍大将。明治26年海軍省官房主事の時、老齢幹部97人の整理を断行。28年軍務局長。ロシアとの戦いに備え「六六艦隊」(戦艦6隻、1等巡洋艦6隻)を整備。31年海相となり在任7年。大正2年首相に就任、軍部大臣現役武官制撤廃、文官任用令を改正したがシーメンス事件(海軍汚職事件)で総辞職。12年関東大震災直後、再び首相となるも虎ノ門事件(皇太子狙撃事件)で辞職

東郷長官の公電

「福井丸ノ広瀬中佐及杉野兵曹長(2人とも前日付で進級)ノ最期ハ頗ル壮烈ニシテ…」と、戦死の模様を詳細に報告した上で、「中佐ハ平時ニテモ常ニ軍人ノ亀鑑タルノミナラズ其ノ最期ニ於テモ万世不滅ノ好鑑ヲ残セルモノト謂フベシ」と結んでいた。

アメリカ世論も好転させた

米西戦争(明治31年)の際、キューバ・サンチアゴ要塞攻略戦で米海軍中尉ホブソンは港湾入口に汽船を沈めて封鎖、上陸部隊を援護した。広瀬はその勇敢な行為にならったんだ…と。

●広瀬は、山本に格別に印象に残る士官だった

▽明治３０年正月　山本（海軍少将、軍務局長）の家に
「広瀬武夫」と名乗る海軍大尉が　訪ねて来た

▽用件を聞くと　山本の長女いね子（18歳）と
広瀬の同期生　財部彪大尉（常備艦隊参謀）の
縁談を「破談にしてほしい」

周りの目を気にする級友のために

「娘に何か問題があるのか？」「お嬢さんに問題はないが閣下に問題がある」。広瀬はこう言うのだ。財部は放っておいても偉くなる男だ。それが山本の娘婿になれば実力で出世しても「親の七光り」と陰口される。同期生として心外だし財部も可哀相だ。この際、スッパリ破談にして貰えないか。

山本は「俺は依怙贔屓なんかせん。世間の噂なんぞ気に掛けてはいかん。しかし、お前の気持ちもわかるから、財部の気持ちも聞いた上、しかるべく取り計ろう」と広瀬を帰したが、結局財部は山本の娘婿になり出世街道を歩む。

●明治３０年、海軍は日清戦争で中断していた海外留学を復活させることに

広瀬は異例の抜擢でロシア留学

内定候補5人のうち、財部がイギリス、広瀬がロシア、秋山がアメリカ。山本が考課表を見ると、財部、秋山が首席、他のドイツ、フランス組も2番、3番と選り抜きの俊秀なのに、広瀬だけは80人中64番。副官に調べさせても「間違いない」との返事。当時の海軍は英語、フランス語が主流で、ロシア語は難しいため、学ぼうとする者が少ない中で、広瀬が早くから取り組んでいた熱意が買われ、6月首都ペテルブルクに留学した。

▽山本が　議会で発言を求めた背景には
「あの男が、これからという時に惜しい男を…」

●財部たち海兵同期生の間で、「広瀬のことを将来に伝えたい、それには銅像を建てよう」

財部　彪（たからべ・たけし）

慶応3（1867）～昭和24（1949）　日向都城藩出身。海軍大将。妻は山本の長女いね子。明治30年英国に留学し常備艦隊・軍令部参謀を経て、42年～大正4年海軍次官。12年～昭和5年の間に6度海相就任、ロンドン軍縮会議全権を務める

「財部親王」

山本は人事が公正で、「薩摩の海軍」といわれたほど薩摩閥に偏っていた海軍を「日本の海軍」にした人だが、唯一の例外が娘婿財部の人事。同期生どころか、いつも2、3年先輩を追い越して宮様並みのスピード昇進だった。財部（海兵15期）が大将になったのは大正8年、1期先輩の鈴木貫太郎は4年も遅れて12年だった。

鈴木　貫太郎（すずき・かんたろう）

慶応3（1867）～昭和23（1948）　千葉県関宿藩出身。海軍大将。日清戦争で水雷艇長、日露戦争で駆逐隊司令として活躍、水雷戦の権威。大正13年連合艦隊長官、14年軍令部長。昭和4年予備役となり11年まで侍従長。二・二六事件で襲撃され瀕死の重傷。枢密院議長を経て20年4月首相に就任、聖断で終戦に導く

「岡田啓介回顧録」には…

広瀬が山本から「俺の娘をやろう」といわれて、「私は親の威光で出世したくありません」と断った有名な話がある。そのお嬢さんが財部の嫁さんになった　―　と書いてある。

岡田は財部、広瀬と同期生だから信用したくなるが、藩閥意識の強い時代、山本が娘婿にと目をつけたのは都城出身で秀才の財部だったろう。だが、岡田までそう思い込むほど、そんな弁解をしていたところに、周りの目を気にする

▽義捐金募集の話が 持ち上がった時
この計画に賛同したのが 東京日日新聞(現毎日新聞)

社告で「皆称して軍神と謂ふ」

「偉業中の偉業、義烈中の義烈、奇勲中の奇勲の功を奏し一死天昏に入る者は広瀬武夫君也とす。皆称して軍神と謂ふ。蓋し天の命名也。願くば大方の諸君、与に倶に義捐せられむことを謹白」

▽一人１円の募集で ３２４２円５０銭集まり
神田須田町に 広瀬と杉野の銅像が建てられた
進駐軍命令で撤去(昭和21年11月)まで 観光名所に
▽陸軍も 遼陽の戦いで戦死(8月31日)した
橘周太少佐を 中佐に進級させ「軍神」に

●魅力に溢れる広瀬の人間像が…

島田謹二さんの広瀬研究のスタート

昭和34年秋、東大図書館書庫で何気なく開いた本のフライリーフ(巻頭の白いページ)の「武夫」という捺印が異常に心に沁みた。下を見ると「広瀬武夫蔵書」の6文字が篆書という奇異な字体ではっきりうつされている。少年の日から見なれていたあの銅像の主人公がこんな本を持っていたのか ― 何とも得体のわからぬ感動だったという。あの勇士は蔵書印を捺すほど、書物も相当数持っていたのか。ことによると、ただ好学の士だけではなく外国事情に精通する文化的エリートだったのではなかろうか？

この明治武人の正体を突き止めたいと、島田さんが調査を進め、「ロシヤにおける広瀬武夫ー武骨天使伝」を出版したのは36年夏だった。

▽ロシアへ留学した広瀬は 駐在員となり
首都ペテルブルクで 足かけ５年暮らす
▽ロシア国内を 隈なく旅行し
プーシキン ツルゲーネフ トルストイなど
ロシア文学書を 原書で読めた 数少ない一人
▽兄勝比古は大正７年 広瀬の蔵書２００冊ほどを
ロシア研究の 志を継ぐ者の参考にと
東京外国語学校(現東京外語大)と 南葵文庫に寄贈

財部の性格がよく出ている。昭和5年のロンドン軍縮会議に全権として出席した海相の財部は、優柔不断から、それまで統制のとれていた海軍を、条約派、軍縮反対の艦隊派とに分裂させる一因を作る。余りにも順調にエリートコースを走り過ぎ、ちやほやされて偉くなったため、一番肝心な信念がなかった。

岡田　啓介(おかだ・けいすけ)
慶応4(1868)～昭和27(1952) 福井藩出身。海軍大将。大正13年連合艦隊長官、昭和2年海相。4年軍事参議官となり、ロンドン軍縮条約調印に尽力。7年再び海相。9年首相に就任、二・二六事件で襲撃されるが危うく難を逃れる。戦争末期、重臣として東条内閣倒閣の中心となり和平に尽力。著に「岡田啓介回顧録」

橘　周太(たちばな・しゅうた)
慶応1(1865)～明治37(1904) 長崎県生まれ。明治24年東宮武官。35年名古屋地方幼年学校長。日露戦争に出征、歩兵第34連隊大隊長として遼陽付近首山堡の攻撃で、重傷に屈せず奮戦し戦死。死後中佐に進級。軍神に

島田　謹二(しまだ・きんじ)
明治34(1901)～平成5(1993) 東京生まれ。東大比較文学講座の初代主任教授。著に「ロシヤにおける広瀬武夫」(昭和36)「アメリカにおける秋山真之」(同44)「ロシヤ戦争前夜の秋山真之」(平成2)。平成4年文化功労者

南葵(なんき)文庫

旧紀州侯・徳川頼倫が港区麻布に設立した図書館。旧領地・南紀と葵の家紋から命名され、明治41年に公開。震災後、蔵書の多くは東大に寄贈。

「われを生むは父母、われを育むは祖母」

岡藩の貧乏士族の次男。8歳で母を亡くし、裁判官をしていた父の任地、飛騨高山の小学校を卒業して代用教員をしていた。7歳年上の兄勝比古は海兵で学んでおり東京へ出たいと思ったが、家計が許さない。そんな時、慰め諭し、苦しいやり繰りの中から東京への遊学費を工面してくれたのが祖母満智子だった。

ロシア留学中に80歳で亡くなるが、一度決心したらどこまでもやり通す広瀬は、厳しい躾けの中にも愛情ある祖母により育てられた。

●広瀬は身長１㍍７５、柔道は講道館４段

▽ロシア公使館付武官は 講道館で一緒に汗を流し ロシア語を手ほどきしてくれた 八代六郎少佐

明治の軍人は教養人

八代が「万里長城不レ禦レ胡」と吟じ「30歩歩く間に17文字にしてみろ」― 広瀬は5、6歩出たかと思うと「盗人を吾が子と知らで垣作り」。

胡は、中国北方を荒らした騎馬民族匈奴のこと。中国を初めて統一した秦の始皇帝(BC210死去)は、匈奴を防ぐため万里長城を築いた。始皇帝が亡くなると、宦官たちは「長男を後継ぎにする」との遺書を握り潰し、賢い長男を自害させて自分たちの操縦しやすい末子胡亥を皇帝にしたが、秦は愚かな胡亥のため滅亡する。

「国を盗んで滅ぼすのが我が子の胡とは知らずに、一生懸命胡を防ぐ垣根を作った」

▽八代は ペテルセン博士(ペテルブルク大学医学部教授)など 信頼できる友人に 広瀬を 紹介してくれた

▽コヴァレフスキー少将(海軍水路部長、子爵)とは 海軍大臣主催の 園遊会の席で ２人の令嬢がいて 妹のアリアズナは１６歳

●３４年１０月、広瀬に帰国命令

▽「広瀬少佐十月十二日付デ帰朝ヲ命ゼラル。三十四年度内ニ帰朝ノ予定ヲ以テ便宜ソノ地ヲ発シ、シベリア通過シ、ソノ地方ヲ視察スベシ」

八代　六郎(やしろ・ろくろう)

万延1(1860)～昭和5(1930)愛知犬山藩の大庄屋の家に生まれる。海軍大将。明治28年ロシア公使館付武官。海大校長、舞鶴鎮守府長官を経て大正3年海相。シーメンス事件の責任をとらせ山本権兵衛、前海相斎藤実を予備役に編入する

八代という人は…

日露戦争で巡洋艦浅間艦長。仁川沖海戦(2月9日)で巡洋艦ワリヤーグなどを撃沈するが、前夜、艦上には尺八で「千鳥の曲」を吹く八代の姿が見られた。内地に伝わり、「風流艦長」の評判が立つと「俺は軍人だ。風流人ではない」と、尺八をやめてしまった。麦6分米4分の質素な生活で、部下の遺児に奨学金を出し金鵄勲章の年金は傷痍軍人の施設に寄付した。舞鶴鎮守府長官の時、士官は雪に閉じ込められ、酒ばかり飲んでいる。水交社(士官の社交施設)に膨大な数の本を寄贈したが横文字の本がたくさんあったという。

広瀬とダンス

少尉候補生で遠洋航海に出た時、シドニーで艦上舞踏会が開かれ、眼前、礼装した男女の飛んだり跳ねたりするのに憤慨、日記に「我神州ノ士ノ為スベキモノニアラズ、況ンヤ、特ニ平時タリトモ戦ニアルヲ忘ラザル軍人ニ於テヲヤ」

役目柄、社交の場に出る機会も増え、ロシアを知るためには嫌いなダンスも習わねば…思い直したところへ田中義一陸軍大尉が留学して来た。一緒に習おうと帝室劇場付の女舞踏教師の所へ通ったが、少しでも姿勢が悪いと、鞭で容赦なく尻を叩かれる。「ロシア研究はここまでやらねばならんか」と、顔を見合わせては苦笑したという。

▽１８歳になっていたアリアズナが
　手帳を差し出し「ここに貴方の記念を下さい」
▽彼女の好きな プーシキンの詩「夜」を
　漢詩に訳し ５文字ずつ 漢字を並べていった
▽広瀬の正直な気持ちは ３行目から４行目
　「君を懐いて心正に熱し 嗚咽独り声を呑む」
▽さらに ５首の短歌「戈(ほこ)握る手に 筆とりて
　外国(とつくに)の みやびのみちを 大和言の葉」
▽広瀬の豊かな教養が 異国の少女の心を

戦争がなければ結婚を…

広瀬は何かれば手紙を書き、何がなくても書くといった具合に、35歳10か月の短い生涯に、2千通ほどの手紙を残している。その中に帰国後の35年7月、兄嫁に宛てた手紙がある。
「コ氏令嬢ヨリ昨今一封ノ信書ヲ手ニ申シ候タメ先ヅソノ荒増ヲ訳シ武夫ノN(のろけの海軍用語)ヲ御一覧ニ供シ申候」と、アリアズナの手紙を訳して紹介している。

▽広瀬戦死の数日後 旅順のロシア語新聞は
　「沈没せる閉塞船の船橋に、ロシア語にて左の言葉を記せる者あり」

福井丸デッキのロシア語字幕

尊敬すべき露国海軍軍人諸君。請ふ余が名を記せ。余は日本の海軍少佐広瀬武夫なり。既に二回此処に来り、其の第一回は報国丸を以てせり。更にまた幾回か来らんとす。

▽旅順には 親しくしていたロシア海軍士官
　彼らを通じて アリアズナに
　　自分の消息を 伝えようとしたのだろう

●戦前の修身の教科書(小学二年)に広瀬のことが
▽軍神のことではなく 少年との約束を守った話
▽ロシアへ留学する時 友人の子供から
　お土産に ロシアの切手をねだられた
▽イルクーツクからは 厳寒の中
　ソリを乗り継いで １０昼夜かけ ２千キロを踏破
▽「自分にもしもことがあれば、切手を心待ちにしているあの少年が、どんなにがっかりするだろう」

田中　義一(たなか・ぎいち)

元治1(1864)～昭和4(1929)　長州藩出身。陸軍大将。明治31年から4年間ロシアへ留学、日露戦争で満州軍参謀。参謀次長を経て大正7年原内閣陸相。14年政友会総裁となり昭和2年首相。張作霖爆殺事件の処理で天皇から叱責され辞職

「夜思」

四壁沈々夜　しへき ちんちんのよる
誰破相思情　たれか そうしのじょうをやぶる
懐君心正熱　きみをおもいて こころまさにねっし
嗚咽独呑声　おえつ ひとりこえをのむ
枕上孤燈影　ちんじょう ことうのかげ
可憐暗又明　あわれむべし あんまためい
潺湲前渓水　せんかんたり ぜんけいのみず
恰訴吾意鳴　あたかも わがこころをうったえてなる
恍乎君忽在　こうとして きみたちまちあり
秋波一転清　しゅうはいってんして きよし
花顔恰微笑　かがん あたかもびしょうして
似領吾熱誠　わがねっせいを うなずくにたり
吾身与吾意　わがみと わがこころと
唯一向君傾　ただひたすら きみにむかいてかたむく

アリアズナの手紙

深ク敬ヒ参ラスル武夫サン！ 近頃イヤ久シク堪ヘガタキ迄ニ待チカネタルノチ、私ノ手紙ニ対スル御前様ノ御答ヲ受取申候。御前様ヨリノ御手紙ヤ御写真ヤ御画ハガキニ向ッテ私ハ御前様ニ大ナル感謝ヲ捧ゲ参ラセ候。此等ハ皆私ヲシテ大ニ喜悦セシメシモノニテ私ハ御前様ノ私ヲ御忘レナキコトヲ見申候。タダ遺憾ニ思ハレ候ハ、…御前様ガ私共ト一処ニイマサザルコトヲカナシミ申候、特ニ私ニ於テハ。

「ヤクソクヲマモレ」

広瀬武夫ハ、ロシヤカラカヘルミチデ大サウナナンギナトコロヲトホルコトニナリマシタ。ソノマヘニ武夫ハアル

▽イルクーツクから 兄宛てに 切手を同封して手紙
▽「この貴重な切手を持っているのは誰か？」
切手マニアの間で 話題になり
文芸春秋（昭和47年4月号）の巻頭随筆で
関重広さん（当時小田原女子短大学長）が「それは私です」

父の遺言を守った杉野兵曹長の長男

杉野は出撃の際、夫人に書き置きを残し、2人の子供の将来について指示していた。「子供を学校へ遣（やっ）て呉れい。子供が良くなるも悪くなるも、お前の責任ですよ。一人は広瀬少佐へ高等小学校卒業の後預て海軍軍人に仕立てて貰ふのだよ。今度は一寸した仕事を行（や）るから、一寸申遺して置くよ。決して心配するに及ばぬ。何事も運だ」

阿川弘之さんの「軍艦長門の生涯」によると、長男修一は大正7年海兵を卒業、終戦時は大佐で旅順の海軍予備学生教育隊長。評判のいい、優しい隊長だったという。戦争が終わって、戦艦長門の第32代、最後の艦長に就任している。

●ウラジオストックには、貿易事務官の川上俊彦・常盤夫妻が待っていた
▽トルストイの「戦争と平和」が 話題になった時
広瀬は「万が一のことになれば、両方でたくさんの兵隊が死ぬでしょうな。そんなことなら僕が単身乗り込んで、アレクセーエフ海軍大将（旅順の極東総督）に穏やかに直談判して人道のため平和に開城させたいものです。僕もロシアに五年近くいて随分世話になりました。ロシアは僕の第二の故郷です。世話して貰ったことに対してはお礼をするのが当然でしょう。日本の将校だから日本のために戦うのは当然だが、同時にロシアにも報いるような道を見つけたい。それが人道というものでしょうね」

広瀬にしっかりした人道のシン

常盤は、人道という言葉に不思議な感動を覚え、島田さんが会った時、50年以上も経っているのに、「その時の広瀬がはっきり印象に残っている」と話している。

子ドモトロシヤノイウビンキッテヲミヤゲニモッテカヘルヤクソクヲシタコトヲオモヒダシマシタ。ソレデソノ子ドモニアテタテガミヲカイテ、イウビンキッテヲ入レ、ソレヲジブンノ兄トコロヘオクッテ「モシワタシガシンダラ、コノテガミヲトドケテクダサイ」トタノンデヤリマシタ。

川上　俊彦（かわかみ・としつね）

文久1（1861）～昭和10（1935）新潟県生まれ。外交官。ロシア公使館勤務を経てウラジオストック駐在貿易事務官となり、日露開戦で居留民引き揚げに尽力。満鉄理事、ポーランド公使歴任

川上常盤の語る広瀬

広瀬と一緒にいると「その大らかな暖かな人柄で、まるで春風の中にいるような、何ともいえず明るい気持ちになった」。市内を案内していると豪雨にあって、道路はぬかるみの海。広瀬はウラジオで新調したばかりのズボンと靴が泥まみれになるのも構わず、泥海を渡って馬車を停め、常盤を乗せてくれた。

散歩しているとき突然1頭の馬が暴走して来た。道幅が狭く、逃げるに逃げられずにいると、常盤は広瀬の腕に抱かれて道端の植え込みの下に。その前に広瀬が両手を広げ仁王立ちに立ち塞がっていた。島田さんに「あるいは武骨天使というものかも知れないと思った」と話している。

開戦に当たり山本海相の訓示

「我ガ軍隊ノ行動ハ常ニ人道ヲ逸スルガ如キコトナク終始光輝アル文明ノ代表者トシテ恥ズル所ナキヲ期セラレムコト本大臣ノ切ニ望ム所ナリ」

広瀬が本気だったことは、ウラジオから旅順に回りアレクセーエフ総督を表敬訪問して帰国。閉塞作戦参加の斎藤七五郎大尉も「広瀬の最後の遺志」をこう伝えている。閉塞作戦が成功したら、東郷長官の許可を得て、支那のジャンクに乗って単身旅順口に赴きアレクセーエフ総督に赤心を披瀝、利害得失を説いて降伏を勧めると、戦友たちに協力を求めていた。

●明治賊軍子弟の貧しさが、日露戦争を勝利に

▽秋山好古も　弟の真之も
　軍人になりたくて　軍人になったのではない
▽学校に入りたくても　家が貧しく　金がない
　ただで食べさせて　勉強させてくれる所が
　　陸軍士官学校であり　海軍兵学校だった
▽伊予松山藩は　賊軍として　土佐藩に占領され
　戊辰戦争の軍費　１５万両を押しつけられた
▽藩士の俸禄を削って　充てることになったが
　父親は　１０石取りの　下級武士

９歳の決意を守るために

その最中に五男の真之が生まれた。好古は両親が「今度の子は寺へやって坊さんにするか」と相談しているのを聞いて、「寺へやっちゃいやぞな。今にウチが大きくなったら、豆腐角（四角い豆腐ほどの厚みのある札束）ほどのを儲けてあげるけん」と止めた。真之は坊さんにならずにすみ、好古も風呂屋の釜たき、米つきで家計を助けた。

明治7年暮れ、15歳の時、19歳になれば金がなくても入れる師範学校があることを知り教員を思い立つ。翌年1月、大阪で教員検定試験、正教員資格試験に合格し月給9円の教員に。16歳を19歳と偽り、大阪師範学校に入り、9年7月には三等訓導として名古屋師範付属小に赴任した。月給も30円になったが、好古を名古屋へ呼んだのが旧松山藩士和久正辰で、「士官学校へ行け」と勧める。官費で将来性があるという。

●明治１０年１月、士官学校に入校願書

マリアは弔慰の手紙

ペテルセン博士の令嬢。広瀬の姪や切手少年のために古切手を1653枚も集めてくれた人で、38年1月兄嫁宛てに手紙を届けてきた。ロシア語では戦争中の日本では受け入れてもらえないだろうと、ドイツ語で書いて、ドイツの友人を通じて送ってきたものだった。

「あの方は、私どもにとって決して忘れることのできない、懐かしい、誠実なお友だちでした。あの方の思い出は私どもの心に常に生き続けているでありましょう。あの方は、愛する、尊い祖国のために英雄として死んでゆかれました。そしてあの方の思い出は永遠に、歴史の中に、ご家族の心の中に、また多くの友の心の中に生き続けていくことでございましょう」

子供の頃の好古

好古は三男で、漢学好きの父親が論語の「信而好古」から「信三郎好古」と命名した。7か月の早生児のせいか3、4歳になっても弱々しく、鼻水を垂らし泣いてばかりいた。子供仲間は「信公の鼻垂れ」、「鼻信」といってからかったが、頭はよく7歳で藩校の明教館に入ると、11歳の時には「五等」。先生の助手になり、論語、春秋の四書五経の素読を仲間に教えた。悪ガキは「五等でも鼻信」と悔しがったという。

寺内　正毅（てらうち・まさたけ）

嘉永5（1852）～大正8（1919）　長州藩出身。陸軍大将・元帥。西南戦争で負傷、軍政面を歩む。教育総監、陸大校長を経て明治35年桂内閣陸相。43年朝鮮総督。大正5年首相に就任、シベリア出兵を強行し、米騒動で総辞職に追い込まれる。長男寿一は太平洋戦争の南方軍総司令官

騎兵将校に

生徒司令副官の寺内正毅大尉が、試験科目は漢文、英語、数学だという。好古が驚いて「英語と数学は習っていない」と言うと「漢文だけで受けろ」。草創期の明治は全てに大雑把で頭の程度がわかればよい、ということだった。

好古は合格し寺内から「兵科は何にするか」。騎兵を選んだのは、父親が徒士、馬に乗れない身分。背が高い好古は馬に乗ってみたかった。何より修業年限が3年、砲兵、工兵より1年早く少尉になれる。給料が貰えれば送金できる。夏に帰省した好古は、父親に「少尉になったら送金するから、真之を中学に入れるよう」頼んでいる。真之は12年春松山中学に入ったが、正岡子規と一緒だった。

好古は常々「人は生計の道を講ずることにまず思案すべきである。一家を養い得て、初めて国家と郷里に尽くせる」と言っていたが、この現実的な考えは終生変わらなかったという。

●真之は折角入った大学予備門を半年で退学、海兵へ

▽大学卒業まで　４年もかかる

兄に　学費と生活の面倒を　見て貰っていいのか

解決する道は　学費免除　官費の学校へ行くこと

「文学をやろう」と誓った子規に詫び状

「予は都合あり。予備門を中退せり。志を変じ海軍において身を立てんとす。愧(は)ずらくは兄との約束を反古にせしことにして、今より海上へ去る上は再び兄と相会うことなかるべし。自愛を祈る」

●好古は明治２０年、大尉の時にフランス留学

▽旧松山藩主　久松定謨(ひさまつ・さだこと)が

フランス陸軍士官学校に　入校することになり

面倒を見てほしいと頼まれ　一緒に入校

▽陸軍省から「軽騎兵の戦術、教育を研究せよ」

ルアン騎兵隊(パリ北西)に勤務

4年余りにわたり　騎兵の本格的研究に

正岡　子規(まさおか・しき)　本名　常規(つねのり)

慶応3(1867)～明治35(1902)　松山市生まれ。俳人。近代俳句に多くの業績を残し、カリエスによる病床生活の中で「墨汁一滴」「病牀一尺」などの随筆を残す

「簡単明瞭」「単純明快」が信条

子規は16年6月、大学予備門(東大の予科)受験のため中退し上京した。真之も9月に好古の家に居候したが貧乏を絵に描いたような生活。家財道具は鍋、釜、七輪、酒徳利に欠けた茶碗が1つあるだけ。好古が茶碗で酒を飲み干すと真之がご飯を掻き込む。おかずはタクアンだけ。

一家を養えるようになった今、軍人として国家に尽くす。自分は騎兵将校だから、敵に勝てる騎兵を作る。弟に約束通り学問をさせる。この人生目標以外は余計なことであり、考えたり、やったりしない。

真之と子規の細やかな友情

真之が26年、快速巡洋艦吉野の受け取りにイギリスへ行った時、子規は暑いインド洋を航海して帰ってくる真之の身を案じ、「暑い日は思ひ出せよふじの山」の句を贈っている。新しい俳句を目ざす活躍が認められ、めきめき売り出し中、元気一杯のの頃。30年に真之がアメリカへ留学した時は、新聞「日本」に「君を送りて思ふことあり蚊帳に泣く」という、送別の句を載せている。親友の旅立ちを喜びながらも自分の方は結核カリエスで歩くこともままならない。「蚊帳に泣く」に子規の気持ちが伝わってくる。

日本人離れした感じの好古

色白で尻下がりの大きな目、鷲のように高い鼻。しかも背が高い。フランス留学時代、チフスにかかり、それ以

▽２９年 中佐で 陸軍乗馬学校長（その後騎兵実施学校）
４年間 校長を務め 騎兵が 騎兵の特性を
いかに発揮するかを 徹底して 教え込んだ

「騎兵将校の使命」（好古の講義録から）

「騎兵将校は軍の耳目となり、実地に自ら地形を視察判断し、敵情を実視、精確なる判断をなすべし。必要の時機に際しては、自ら作戦を計画して具申し、軍の作戦計画の基礎となさざるべからず」

好古はそのため挺身作戦を強調し、通信の教育も行なっている。騎兵が習得すれば捜索、情報活動を飛躍的なものにするからで、騎兵が持ち運びできるように携帯用小型通信機も開発、日露戦争では大きな成果を挙げた。

●人間的信頼が「露清密約」をつぶす

▽明治３６年４月 義和団事件の後始末で
清国駐屯軍司令官をしている時
「ロシアが清国政府に新たな密約を申し入れ
交渉中」との情報が 入って来た

▽好古は 情報将校を
袁世亥（直隷総督）の所へやって 確かめさせた
「総督に手紙を書くから、持って行け」

▽将校は「いくら親しくても、そんな国家の機密を
簡単に洩らすだろうか」半信半疑だったが
袁は「秋山将軍に隠し立ては出来ません」

▽ロシア側要求６か条を 話してくれた
・露国軍艦は清国どこの港湾にも自由に入れる
・露軍撤兵後も満州の利権は全て露国のもの

▽好古の通報で 日本政府は 英米両国と共に
ロシアに厳重抗議 清国政府も 要求を拒否した

▽その直後 好古は 騎兵第１旅団長（習志野）に就任
帰国の船には 袁の長男 袁克定と友人２人

▽袁夫人は 日本留学に 反対していたが
「秋山閣下がお世話下さるなら」と 承知した

●一切、自慢話をしない人だった

▽日露戦争の話が 出ても
「負けてばかりいた。ただ、わしは逃げんかった」

来、髪の毛が抜け出し、見事に禿げ上がっている。騎兵実施学校に視察に来たイタリア武官が「ここの校長は日本人ですか」と聞いたほどだった。

教育総監の寺内正毅も視察に来た。「規則が軍服を着ている」といわれたほど規律、規則に喧しい人。副官が心配して校内の清掃を進言したが、「学生は草刈りどころではない。雑草は時が来れば枯れる。放っておいたらいい」。果たして校庭の雑草を見て叱り付けた寺内に、好古は「演習の邪魔になりませんから、捨てておきます」

寺内が厩舎に回ると、ここは申し分ないほど手入れが行き届いている。

合理性、形式にとらわれない柔軟な頭脳、独創性が好古の特性だった。

義和団事件（北清事変）

33年6月、義和団（浄土信仰の一派・白蓮教系の秘密結社）は、列強の中国侵略に抗議、民衆を巻き込んで北京の各国公使館を包囲した。清国も日本をはじめ8か国に宣戦布告、正規兵も攻撃に加わるようになったため、各国は連合軍を編成、8月14日に北京を解放した。

袁世亥（えん・せいがい）

1859～1916　中国の軍人・政治家。李鴻章を継いで直隷総督に就任し北洋軍閥首領となる。辛亥革命で革命派と結び、清朝の宣統帝を廃位して臨時大総統に就任、帝政実現を図ったが失敗した

第１騎兵旅団の第一戦は苦戦に

37年5月30日朝、ロシア軍に野砲6門があり、一方的な砲火を浴びた。好古は敵弾が集中している最前線の機関銃陣地へ。副官の中屋新吉大尉が「ここは危険です」と、腕を引っ張って連れ戻そうとすると「中屋、おまいの敵

▽秋山騎兵旅団が 機関銃を装備していたことが
ロシア軍の猛攻にも 退かずに耐える
不敗の騎兵集団を 作ることに

機関銃

歴史は結構古く、手動式のものは戊辰戦争で長岡藩家老・河井継之助が使い、官軍を大いに苦しめたことが司馬遼太郎さんの小説「峠」などに出ている。明治13年、アメリカのハイラム・マキシムが自動式を開発すると、兵器として採用する国が増えてきた。ただ重さが100㌔もあり、馬で引っ張るしかないから名称も「機関砲」。大砲の一つと考えていたわけで、どう使ったら効果的か、どの国も掴んでいなかった。

▽「野戦に最適の兵器」と いち早く見抜いた好古
当時の機関銃は １分間に２５０発
１分で１０発撃つ歩兵 ２５人に匹敵する
▽好古は 明治３１年「機動力のある騎兵に
持たせれば威力も大きい」と 意見書を提出
▽開戦直前 フランスから
空冷式ホチキス機関銃 ６０挺を購入

●好古は強力なコサックに対抗するのに、「騎兵には騎兵で」の常識にとらわれなかった

コサック(Cossack)

島田さんによると、「軽武装の人」というトルコ語。15世紀の頃、モスクワ公国の農民が税金や徴兵を逃れるためドン川流域など南東部へ流亡、移住していった。豊かな土地と馬に恵まれ、強力な騎馬集団を作り上げた。ロシア皇帝から土地、自治組織を認めて貰う代わりに、騎兵として仕え、コーカサスなどの辺境警備、シベリア開拓の先兵となった。

▽コサックのお家芸は 長槍を振りかざし 馬上突撃
勇猛果敢に 繰り返し ピストン攻撃
▽好古の頭には「長篠の戦い」
▽柵の代わりに 工兵に 塹壕を掘らせ
鉄条網を張って 拠点陣地を作った
騎兵は馬から下ろし 陣地に入れて歩兵に

は正面じゃ」。水筒に詰めたブランデーを飲み出す。好古にとって酒は、仕事をしたり考えごとをする燃料。

歩兵中隊長が駆け込んで来て「わが中隊は弾丸が尽きました。今、わずかに戦況が好転したこの機会に後方へ下がり、態勢を建て直すべきです」。好古は「うん」と言ったきり近くの民家の土塀で寝転がってしまった。

兵隊たちが「旅団長閣下が機関銃陣地でふて寝している」。囁き合っている間にロシア軍の方が攻め疲れた形で退却していった。好古は後で中屋に言った。「後退の意見を言われた時ほど困ったことはない。しかし、もしこの緒戦で後退したらわが騎兵の士気は衰えよう。退却命令を出すと、次の戦場でも同じ状況を迎えた時また退却する。退却の惰性がつくと、戦も負け癖がつくものだ。だから、聞かんふりをして寝ていたのだ」

河井　継之助(かわい・つぐのすけ)

文政10(1827)～慶応4(1868) 長岡藩家老。洋式軍制改革を実施し、戊辰戦争で中立を標榜したが、官軍に容れられず、長岡城の激しい攻防戦を展開。負傷し、会津に逃れる途中で死去

長篠の戦い

織田信長は天正3年(1575)5月、愛知県東部・長篠の戦いで、武田勝頼の騎馬軍団を破るために柵を三重に巡らし、その後ろに3千挺の鉄砲隊を三段構えで配置した。先頭が撃つと、弾込めしてある2列目が代わり、間断なく撃ち続けることで大勝利を得た。

鉄砲の大量使用で以後の戦術・戦法に大きな影響を与えた。

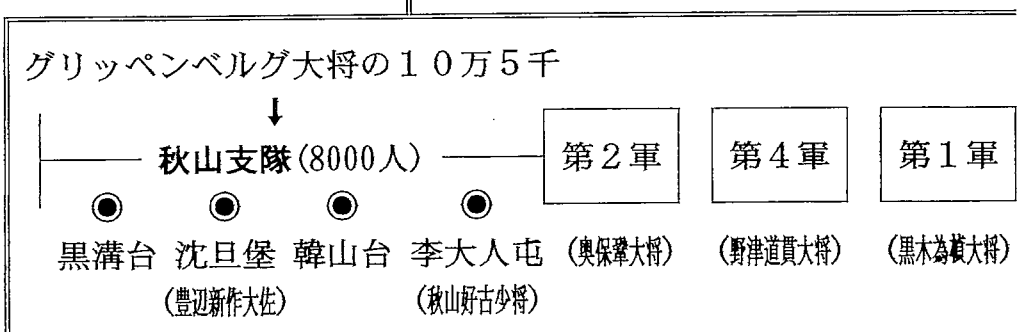
▽陣地に 機関銃を据え付け
　隙間なく撃ち続けて コサックを薙ぎ倒した

●日露戦争最大の危機・黒溝台の戦い
▽明治３８年１月 日露両軍は
　奉天と遼陽の間を流れる 沙河を挟んで対峙
▽第２軍に属する 秋山支隊（８千人）は
　日本軍の最左翼 東西３０キロに展開
　　普通なら ８万人以上で守る 広い戦線
▽１月２５日 この一番薄いところを衝いて
　グリッペンベルグ大将率いる １０万５千が
　　秋山支隊に 襲いかかってきた
▽好古は 総司令部に
　「大騎兵団が南下し、偵察活動も活発になっている。大作戦の前兆ではないか」
▽ヨーロッパの在外公館からも ロシア軍の新たな攻勢の情報が
　　大本営に入っていて 警戒警報は出ていた
▽氷点下２０度以下の 積雪 厳寒期
　「こんな時に大軍を動かせるはずがない
　　せいぜい威力偵察だろう」
▽満州軍総司令部の 単純な思い込みが
　　作戦を後手後手に 日本軍崩壊のピンチを招く
▽寒い時に動けないのは 日本人の感覚
　　ナポレオンを破ったのは １８１２年冬だった

●秋山支隊は理屈抜きで死守するしかない
▽防衛線を破られたら 後ろに回られ 包囲される
　　頼みは ４つの拠点陣地と １１挺の機関銃
▽総司令部も 第８師団（弘前）を 黒溝台救援に
　　参謀長が「敵が左に回りたがっているから、黒溝台守備隊に一旦後退させ、敵が通過した後で黒溝台に進出した方が救援しやすい」
▽ロシア軍は 通り過ぎるどころか
　　黒溝台に そのまま居座り 大規模な陣地構築
▽捨てた黒溝台奪回に さらに ２個師団の増援
　　隣の沈旦堡の陣地に 猛攻が加わった

好古の優れた戦略眼

ただ単に、騎兵に機関銃を持たせたのではなく、工兵に陣地を作らせ、歩兵、砲兵を入れて、攻めと守りに厚みを持たせた。騎兵中心の機動部隊「秋山支隊」を作ったわけで、このアイデアはその後の日本陸軍では忘れられた。逆にソ連は、戦車を中心とした歩兵、砲兵、工兵に航空部隊協力の強力な機械化部隊を作り上げ、昭和14年、ノモンハンで関東軍を破る。



黒木　為楨（くろき・ためもと）
弘化1（1844）～大正12（1923） 薩摩藩出身。陸軍大将。日清戦争で第6師団長。日露戦争では第1軍司令官、鴨緑江から奉天に連戦した。大正5年枢密顧問官

野津　道貫（のづ・みちつら）
天保12（1841）～明治41（1908）薩摩藩出身。陸軍大将・元帥。日清戦争で第5師団長、第1軍司令官。近衛師団長、教育総監を経て日露戦争では第4軍司令官

奥　保鞏（おく・やすかた）
弘化3（1846）～昭和5（1930）　小倉藩出身。陸軍大将・元帥。日清戦争で第5師団長。日露戦争で第2軍司令官。参謀総長

沈旦堡守備は豊辺新作大佐

騎兵第14連隊長で新潟県出身。地味で目立たず、愚鈍の評価もあったが、好古は沈着で粘り強い性格を買って

●沈旦堡包囲のロシア軍にも異変が生じていた
▽兵隊たちが 寒さと疲労の余り
塹壕や雪の上で眠り込み 凍死の危険性
▽ルサノフ中将(第14師団長)は
「指揮官として部下に戦死を覚悟させることは
出来るが、凍死を強いるわけにはいかない」
２８日未明 独断で 撤退命令を出した

日本軍勝利で終わったが…

4日間にわたる黒溝台の戦いで日本軍は戦死1848、負傷7249、捕虜227で負傷の半数は凍傷。ロシア軍は戦死641、負傷8989、捕虜1113人。
秋山支隊が沈旦堡を持ちこたえなければ、日本軍は総崩れとなり奉天の戦いの勝利もなかった。10倍を超える敵から守り抜けたのは、機関銃と砲兵、工兵を動員しての総合力だった。

●好古は「騎兵の挺身作戦」を満州の奥深く展開
▽建川美次中尉以下６人の「建川挺身隊」が
ロシア軍の 奉天での決戦準備を 探ってきた
▽１月９日 永沼秀文中佐(騎兵第8連隊長)率いる
永沼挺身隊(騎兵176騎、満州人の馬賊合わせ400人)が出発
▽ロシア軍の後方攪乱に 行程１６８０キロ
２か月間にわたる 厳寒期の 長期作戦
▽２月１１日夜には 長春付近で
東清鉄道の輸送の要 新開河鉄橋を爆破
▽ロシア軍は 神出鬼没の挺身隊に 振り回され
報告も誇張されて「日本騎兵１万、
馬賊２万がロシア軍後方に進出中」
▽敏感に反応したのが クロパトキン(ロシア軍総司令官)
主戦場の奉天から ミシチェンコ騎兵団など
兵力３万 重砲２４門を引き抜いて
北方の「幻の日本軍」に 向かわせた
▽３月１０日の 奉天の戦いでは この精鋭部隊が
何の役にも立たずに 日本軍勝利の一因に
▽挺身隊は 戦死２３ 行方不明２ 負傷者６０名
「殊勲第一」と 満州軍総司令官から 部隊感状

●永沼中佐が個人感状に推薦したのは、将校でも下士官でもなく、佐藤弥作一等卒(一等兵)ただ一人だった

いた。好古はまた、戦場の匂いを嗅ぎ分けるのにも巧みな指揮官だった。自分が守る李大人屯には寄せ集めの部隊を置いて、子飼いの精鋭第1騎兵旅団の主力は豊辺に預けていた。
雨霰の砲撃の後、ロシア軍が大津波のように押し寄せて来る。何度か、沈旦堡は消えたのではないか、豊辺の部隊は全滅したのではないかと思ったが、その都度3挺の機関銃音が聞こえてきて、まだ頑張っていることを教えてくれた。

建川　美次(たてかわ・よしつぐ)
明治13(1880)～昭和20(1945)新潟県生まれ。陸軍中将。満州事変で参謀本部作戦部長として作戦指導に当たり、第10、第4師団長を経て昭和15年駐ソ大使

永沼　秀文(ながぬま・ひでふみ)
慶応2(1866)～昭和14(1939) 仙台藩出身。陸軍中将。明治32年に中佐で騎兵第8連隊長となり日露戦争に従軍、永沼挺身隊を指揮。42年騎兵第1旅団長

クロパトキン(Aleksey Kuropatkin)
1848～1925 ロシア陸軍大将。陸相を経て極東軍総司令官として日露戦争を指導したが、奉天会戦に敗れ解任された

永沼挺身隊の後日談

新開河の鉄橋爆破で2人の戦死者を出したが、ロシア軍は墓地を作り、墓標は高さ3㍍60㌢の立派なもの。ロシア語で「戦死せる日本軍の将校及び下士官を埋葬したものである。安らかに眠り給え」と書かれていた。コサック司令官・ミシチェンコ中将が「墓標を高くせよ」と命じたという。
ポーツマス講和会議で、東清鉄道(後の満鉄)をどこまで日本側の権利とする

▽挺身隊の長期作戦は 大勢の負傷者を抱え
　寒さと食糧難に耐える 忍耐のみの行軍だった
▽佐藤は 自分の食事もとらずに 重傷者に与え
　負傷した時に備えて 誰もが
　　隠し持っていた包帯を 負傷者に差し出した、
▽「己れの心との戦いに勝った真の勇者だ」
▽上級司令部は「殊勲第一の部隊。もっと推薦しろ」
　永沼は「功なきをいかんせん」と返電させた

永沼中佐の言葉

「人間は生きている限り欲が出るのは本能のようなものだ。軍人が論功や賞罰に敏感なことも当然であろう。しかし、この本能や軍人特有の惰性に流されて、一将功成り万骨枯る、の醜い状態になってしまうことを放置しておいては絶対にいけない。軍人は血気にはやり、群集心理的にある方向に勢いを向けがちなので個々人、特に上級者になればなるほど、謙虚と謹慎が要請され、この誠意を通じて、軍隊という特殊団体をして真に祖国の守護者として発展させることが出来る。そう考えると、論功や賞罰は、軍隊の神髄を発揮し、これを育成する最高無二の好機と思われる」

●好古も「戦勝に奢り功名を追えば国は滅びる」

生涯名利を求めず無欲恬淡

清国駐屯軍司令官から騎兵第1旅団長に転勤が決まり、天津で送別会が開かれた。居留民の感謝の募金700ドルが集まり、後日金時計を買って贈ることになった。好古は「これから赴任する習志野は狐狸の住む野っ原です。そんな高価なものは似合いません。折角のご好意、現金で頂けないか」。みんな怪訝な面持ちだったが衆議一決、現金が贈られると、好古は再び立って「この700ドルを日本の居留民学校の教育資金にして頂きたい」。万雷の拍手に包まれた。

家へ持って返るのは目録だけ、中身は部下などにやってしまう。習志野時代は薬円台、大将になっても千駄ケ谷で借家住まいだった。

かが議題になった。戦争法規では「戦勝国は、その軍が占領した地域を、敗北国から割譲を受ける」。ロシアは日本軍進出の奉天北方約120キロを主張。しかし、この墓標が、日本軍がここまで来て戦闘したという証拠になり、長春から南の鉄道譲渡が決まった。

見事な愛ある統率

好古は「永沼は、色白で温厚な、商家の大旦那のような紳士だった。平時、サロンで談笑していれば、あのような鬼神の働きをしたとは誰も思わないに違いない」。永沼も「私は秋山将軍の教え子で、教わった通りをやったまでです」と語るだけだった。

島貫重節さん（終戦時陸軍中佐、戦後は陸上自衛隊東北方面総監）が詳しく調べて「あゝ永沼挺身隊」（昭和50年）を出版している。その中に、作戦中に味方とはぐれ、13日間も荒野を放浪したあげく、やっと戻って来た佐藤勘三郎一等卒のことが出ている。

農家で休ませて貰っていると、どうも様子がおかしい。佐藤が便所へ行くふりをして裏へ出ると、人を呼び集めている。戻れば捕まるので、馬も銃も捨てて逃げ出し、途中、畑で働いていた農夫に軍服と満州服を交換して貰った。

ところが兵隊仲間は「命ほしさに軍人の魂を捨ててきた」と、白い目で見る空気が強かった。永沼は、佐藤から話を聞いた上で、「お前が返って来れたのは、馬も銃も捨ててきたからだ。その行動は正しいが、誤解を受けるといけないから他の者には話さないように」と釘を刺し、佐藤を連隊長付の従卒、自分の傍に置いて白い目から引き離したという。

軍規に照らせば、処罰の対象となる

●第１騎兵旅団は３９年２月、習志野に凱旋
▽好古は 郷里に帰る兵隊たちに
素朴な「凱旋歌」を作り 生き方を諭している
▽「天道人道」は 好古の一生を貫いた 人生訓
▽６人の子供たちにも 繰り返し 教えていた
「人間は貧乏がええよ。艱難汝を玉にすと言うてね、人間は、苦労せんと出来上がらんのじゃ。苦を楽しみとする心がけが大切じゃ」
▽大正１２年 予備役になると 翌年には
従二位 勲二等 功二級金鵄勲章 陸軍大将が
郷里 松山の 私立北予中学校長に

●「非力な日本の騎兵が勝てたのはなぜか？」
▽好古は「日本の騎兵が最初から機関銃を持っていたのに、向こうが持っていなかったからだ」
▽ロシア軍は 機関銃を野戦ではなく
要塞旅順など 防御戦に使った
▽「精神力を強調する余り、火力を軽視する傾向はどうにも解せない」と 嘆いていた
▽日露戦争後の日本は 精神主義の国に
▽「歩兵操典」(明治42年制定)は
「戦闘の最後を決めるのは銃剣突撃である」
▽旅順の戦いで 乃木希典大将の第３軍が
５万９千人余りの 多大な死傷者を出したのは
大砲 機関銃に守られた 砲台に
無謀な 銃剣突撃を 繰り返したためだった
▽尊い教訓は 威勢のいい銃剣突撃に 無視された

●「強大なロシアに勝てたのはなぜか？」
▽「ロシア陸軍が国民の軍隊でなかったからだ」
極東征服という 皇帝の 野心のために動いた
▽日本の軍隊は
四民平等の国家を守るための 国民の軍隊
▽ポーツマスで 講和交渉が進んでいる頃
第２騎兵旅団も 好古の指揮下に入り
「秋山騎兵団」として 大騎兵軍団に
▽軍司令部参謀が 電話をかけてきた
「新編成の大騎兵団を一度も戦場で用いることなく、このまま戦争が終わるのは残念だ。将来の騎兵研究のためにもロシア軍を攻撃しては」

行為だったろうが、規定や形式より、奮戦した部下が無事帰って来たことを喜び、爪弾きされないよう、明快な処置をとっている。佐藤は39年4月、功7級金鵄勲章年金100円を授与され夢ではないかと喜んだ。島貫さんにも「隊長の言うことに嘘はなかった」と繰り返し言っていた。

「第1騎兵旅団凱旋歌」

別れに臨んで教へ草 先ず筆とりて概略を 自労自活は天の道 卑しむべきは無為徒食 一夫一婦は人道ぞ 酒色の欲を戒めて 品性修養を怠るな 日が暮れたなら天を見よ 常に動かぬ北斗星

「官私の区別があってはならない」

福沢諭吉を尊敬し、その平等思想が大好きで、2人の男の子も軍人にしないで慶応に入れた。フランス留学時代、英仏では寧ろ私立学校が優秀なのを見て「中学のことは何も知らんが、俺で役立つなら、何もご奉公するよ。わが国は官権官学のが極めて強大で官立私立の区別が甚だしい」

校長在職6年3か月。沿道の人は毎日きっかり20分前に馬で登校する好古を見て、時計の針を合わせたという。

福沢　諭吉(ふくざわ・ゆきち)
天保5(1834)～明治34(1901)　豊前中津藩出身。幕府使節に随行し3度欧米へ。明治1年慶応義塾創設、15年時事新報創刊。著に「西洋事情」「学問のすゝめ」

乃木　希典(のぎ・まれすけ)
嘉永2(1849)～大正1(1912)　長府藩出身。台湾総督を経て日露戦争で第3軍司令官、旅順攻略戦を指揮。明治40年学習院長となり、昭和天皇の教育に当たる。明治天皇の大葬の日、静子夫人と殉死

▽好古は怒った
「貴重な騎兵を研究の犠牲にするなど、断じて同意出来ない。軍司令部の参謀は重大な心得違いをしている。和平の話し合いが進んでいる時に攻撃を仕掛けるのは道義に悖る。武を汚すものだ」断固として はねつけた
▽昭和に入ってからの陸軍は
満鉄を爆破して 満州事変を起こし
現地紛争に過ぎなかった 盧溝橋事件を
支那事変に 拡大させた
▽参謀たちの 野心 功名心が 軍隊を動かした結果
▽陸軍上層部に
参謀の越権行為を 厳しく たしなめる
好古のような 見識があったら…

●昭和５年、好古が７１歳で亡くなった時、新聞は「最後の武士が死んだ」と書いた
▽爵位はなく 軍人の最高の栄誉である
元帥にもなっていない
▽予備役(大正12年)なった時の陸相 田中義一は
「元帥に推薦する予定だったが
本人が辞退した」と 言っている
▽糖尿病と脱疽で 危篤になった時
高熱の中から 洩れる言葉は
「奉天の右翼へ…」「鉄嶺へ前進」
日露戦争のことばかりだったという

野心、功名心の種は日露戦争で

功績で爵位を授けられた軍人は、陸軍64人、海軍35人計99人。そのうち長州21人、薩摩26人と薩長が半数近く。

旅順の多大な犠牲は第3軍参謀長伊地知幸介少将の、頑固、無能な作戦にあったというのが陸軍部内の定評だった。しかし、軍司令官の乃木を伯爵にするには参謀長に傷をつけてはいけなかった。戦争が終わった時、伊地知は中将に昇進していて「中将以上」という爵位の規定に従って男爵になった。

戦争でないと手に入らない爵位、金鵄勲章を求めて、平地に乱を起こす軍人が増えていったのではないか。